

---

○議長（斉藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 10 時 52 分）

---

◇ 高 柳 孝 博 君

○議長（斉藤 重君） 一般質問を続けます。

通告順位 2 番、高柳孝博君。

（5 番 高柳孝博君 登壇）

○5 番（高柳孝博君） 通告に従いまして、一般質問をしたいと思います。

まず、1 点は「安全・安心な町へ総合的な防災対策の取り組みについて」であります。

8 月 23 日には県の方から浸水の想定が出されました。また、那賀川水系の河口周辺の治水対策委員会の方から 8 月 28 日には答申が出されているわけであります。その中でも防災対策を総合的に行いなさいというような答申があったように思います。

そういった中で、私は次の点について質問いたします。

一つは、南海トラフ巨大地震の被害想定が出されたが、財産を守るための施策と命を守るための施策の取り組み状況はどうなっているかであります。

二つ目は、避難タワー、一時避難所でどれだけ住民を救済できるか。現在、超高齢化社会に入っています。そういった社会の中で総合的な防災計画はどのようなことを考えているかです。

三つ目は、広域避難所の見直しと避難所運営計画の策定が現在なされているのか。なされているとすれば、それは出来ているのか。

四つ目は、業務継続計画、いわゆる民間でいう BCP、これの策定状況はどうなっているのかであります。

続きまして、「松崎町の将来に向けての第 5 次総合計画の取り組みは」であります。

先般、各地区に総合計画についての説明会がありました。そういった中で、町が考えていることに対して、いくつかの質問をしたいと思います。

一つは、超高齢化社会における人口減少抑制による 10 年後の人口を 7000 人の目標達成としていますが、この 7000 人をどのようにして達成するかであります。

二つ目は、現在、生涯現役社会、年齢不詳化社会、いわゆるエイジレスの社会であるというように言われているわけが、そういった中で大事なことは目的を持った活動的な高齢者というのが今後活動する方たちではないかと思うわけです。その方たちの拡大がどのようにされていく

のか、そのことについて質問いたします。

以上で壇上からの質問を終わります。

○町長（齋藤文彦君） 高柳孝博議員の一般質問にお答えします。

1. 安心・安全な町への総合的な防災対策の取り組みについて。①「南海トラフ巨大地震の被害想定が出されたが、財産を守るための施策と命を守るための施策の取り組み状況は」についてであります。

南海トラフ巨大地震による被害想定で静岡県での最悪の場合の被害想定として、死者 10 万 9000 人、建物被害は 32 万棟に達すると公表されました。合せて被害軽減に向けた対策も示されました。

地震に対する被害軽減策として、建物の耐震化、家具等の転倒、落下防止とあります。町としては、いずれも補助制度を設けて推進していますが、利用状況は極めて低い状況にあります。

また、津波対策については、想定の中では避難の効果的な呼びかけがあった場合や発災後すぐに避難開始等により被害状況の数倍の差が出るとされていることから、普段の意識啓発が重要とされています。

また、堤防等の耐震性の有無によって建物、人的被害に差があるとされています。意識啓発には常に努めているところですが、先日の防災訓練の参加状況を見ますと、一層の啓発が必要と思った次第です。なお、堤防等の耐震性については、県へと確認要望を行ってまいりたいと思っております。

また、避難タワーにつきましては、先ほど藤井議員にお答えしたような状況となっております。

②「避難タワー、一時避難所でどれだけ住民を救済できるか、超高齢化社会の総合的な防災計画が必要と考えるが」についてであります。

災害発生時における高齢者等の弱者救済対策の検討が当町にとって大きな課題と言えると思います。先にも申しましたが、災害から助かるには、自ら率先して避難する意識啓もうが大変重要かと思われます。それには老若男女を問わず日頃から避難方法、避難路等の確認を常に行うとともに、避難訓練を繰り返し行うことが重要であると考えます。ただ、どうしても体の自由のきかない方や超高齢の方については、現在地域支え合い事業として、災害時養護援護者台帳の整備を行っています。この情報を基に自主防災組織等を含めた救助体制の構築を考えることとなりますが、県の第 4 次被害想定の見直しの中で進めていきたいと考えております。

③「広域避難所の見直しと避難所運営計画の策定状況は」についてであります。

8月29日に公表された津波浸水区域内の広域避難所で見直しが求められるのは、松崎高校のグラウンドで浸水深が1.4メートルで見直しに該当します。この近辺で松高グラウンドほどの広大な用地も見当たらないことから、浸水した場合には東区以下10地区、3400人余は松崎高校の一角、旧中川小学校、旧岩科小学校、総合グラウンドに分散して避難することになると思いますが、県の第4次被害想定を基にして、浸水した場合と浸水しない場合の両面を併せた見直しも必要と考えます。

避難所の運営については、地域防災計画で避難所の設置及び避難生活の項で記載してありますので、基本的にはそれに基づき対応することになります。

また、県で避難所運営チェックリストを作成していますので、それらも参考にしていきたいと思っています。

④「業務継続計画の策定状況は」についてであります。

この件につきましては、議員からその必要性を強く言われているところです。現在、各課における住民生活に支障が予想される業務の洗い出し、そしてその業務を継続させる手段等について、担当者が不在でも発災後数日以内には最低限の対応ができるような方法等について検討している段階です。

現時点では、完成に至っておりませんので、早めに策定を目指してまいりたいと思います。

松崎町の将来に向けて第5次総合計画の取り組みについて。

①「超高齢化社会における人口減少抑制による10年後の人口7000人の目標達成の施策は」についてであります。

松崎町の将来人口を一定の期間に生まれた集団に着目して推計するコーホート法で計算すると第5次総合計画の最終年度にあたる平成34年度には6200人程度になることが予想されています。今後まちづくりを進めていくうえで一定の人口を維持していくことが必要であり、総合計画では議員のご質問のとおり7000人を目標として設定しているところであります。この目標に向けて、町では総合計画の3つの重点プロジェクトの「光輝く人づくり」の中で、町外から人を呼び込むため、町の情報を積極的に発信するとともに、空家の活用にも取り組み、定住を促進しています。

また、地域の魅力、資源活用の中では新規就農者や農業後継者の育成、農林漁業、商工業、観光業が連携した第6次産業の推進、松崎町の地域資源を活用し、体験を通じて対価を得る全町まるごとふる里自然体験学校を展開していきます。

なお、出生数が毎年 40 名前後と減少の傾向にあることから、子どもの医療費の充実など、安心して子育てができるような環境づくりを図り、出生数を減らさないよう努めてまいりたいと考えております。

②『「生涯現役社会」「年齢不詳化社会」への取り組みとして、今まで以上の「目的を持った活動的な高齢者」の拡大が必要と考えるが、その施策は』についてであります。

松崎町の高齢化率は今年の 4 月 1 日現在で 37.5 パーセントで、県 4 位という状況にあることは議員も承知のことと思います。今後もこの傾向が続くことは明らかですが、こうした中で町の活力を失わせないためには、町中に年齢を問わず、人の動きがあることが重要と考え、総合計画では高齢者が自分らしい生き方ができ、助け合いのある地域の中で、安心して暮らせることを目指します。

そのためには、心身ともに健康であることが大前提となりますので、さんさん松崎やシルバー人材センター、ボランティア、地域サロンなどの社会参加、そして、健康診査の受診や介護予防教室の充実により健康増進と介護予防を促進していきます。

以上でございます。

○ 5 番（高柳孝博君） 一問一答でお願いします。

○議長（斉藤 重君） 許可します。

○ 5 番（高柳孝博君） まず、安全・安心な町への総合的な防災の取り組みですが、いろんな施策というのが考えられていると思うんですが、全般、8 月 23 日に県からは浸水する地域というのが示されたわけでございます。そうしますと、当然そこにおられる方は浸水という被害にあらう可能性があるわけですね。そういった中で、財産を守るやり方と命を守るやり方とは違うと思うんですね。

住民の方にいろいろ聞きますと、とにかく避難タワーを造れという話は一つ出てくるわけですね。ところが、避難タワーというのは、本当に避難タワーで全部の命を救えるか。第 4 次被害想定の話もそうですが、被害想定ということをおっしゃられるわけですが、本当は被害想定が問題ではなくて、どれだけの命を助けられるかということが本当に大事だと思います。そういった中で、総合的にみて技術的なもの、財政的なもの、そういったものがあってすべてを救うのは非常に難しいかもしれませんが、こうすれば最大数人命を助けられる。あるいは財産を助けるためには、こうすれば、いま考えられる技術、お金で助けられる。そういった総合的なものがあって初めて避難タワーをいくつ・・・、総合計画の中では避難タワーを 3 基造ることになっています。

先ほどの答弁の中でも、どこと、どこと、どこに造るということになっていますが、総合的に考えた中で、避難タワーがどの位置づけにあるのか。避難タワーだけではないと思います。避難所もそうでしょう。それは後でまたいろいろ詳しい話を聞きたいと思いますが、総合的な・・・、いま出来ている防災計画をまず見直す必要があると思いますが、その点はいかがでしょう。

○総務課長（金刺英夫君） 現在の防災計画自体が第3次被害想定で策定されております。従いまして、今後、何回も言って恐縮なんですけれども、第4次被害想定が出ますので、それに基づいた見直しというものは当然これからしていかなければならないというふうに考えております。

○5番（高柳孝博君） いま、また、第4次被害想定という話が出たんですが、じゃあ、明日来た時にどうするんでしょうか。もう既に来ると浸水するとわかっているわけですね。そのことに対して何も動かないということはないと思うんです。

既に、例えば、後で広域避難所も出てきますが、松高が浸水すると出ています。そうすると、松高が浸水するとわかっていて、4次まで待つんですか、それでは間に合わないと思います。そのあたりの考えはいかがでしょう。

○町長（齋藤文彦君） それを言われると非常にあれなわけなんですけれども、L2、1000年に一度の大きい津波が来た時にはもう逃げるしかないと思うわけなんですけれども、L1、100年に一度くらいの津波だったら第3次被害想定で松崎町は防げると私は思っています。

それはどうしてもやっぱり那賀川が開いていますので、やっぱり水門等を造ってL1くらいは防げるような態勢を整えていきたいなと思っていますところでございます。

○5番（高柳孝博君） 例えば、山田町の町長が来た時に何を言ったかということ、被害があった時の避難所というのは平時から決めておきなさいということを行っているわけですね。そうしたら、例えば、避難された方・・・、もう浸水するということはわかっていますから、何人かの方は浸水で被害にあうわけですね。そういった方が家に住めなくなった時に、例えば、仮設の避難所を作るといった時にどこに作るか、それが中川の小学校がいいということであれば、中川の小学校であれば何棟避難所施設が作れるか、そこで空調がどれだけ必要か、水道がどれだけ必要か、トイレはどれだけ必要か、そういった検討はできるんじゃないでしょうか。それを事前にやっておきなさいと言ったのは、山田町の町長が来た時に言った話だと思うんですが、そのあたりはいかされていないのではないかと思います。そのあたりの検討は充分・・・、既にもう避難所もできていますから、わからなければそこにどういったのも、何が必要になるのか、先にやらなければならないことは何かわかると思います。そのあたりの動きはいかがでしょう。

○総務課長（金刺英夫君）　とりあえず現状では第3次被害想定のもとに各避難所へと防災資機材と言いましょか、緊急を要する備蓄食料あるいは水、併せまして簡易トイレ等々の設置をしているところでございます。そういったものを今後改めて見直していくということが大事になるかと思しますので、またその辺も合せて計画の見直しで対応していきたいというふうに考えます。

○5番（高柳孝博君）　4次想定を待つてという話もわからないわけではないんですが、明日来た時にどうするかをまず考えなければいけないと思います。そういったことも考えて財産を守るにはどうしたらいいか、人命を守るにはどうしたらいいか、もう一度見直しをお願いしたいと思います。

それで、2つ目ですが、避難タワー、一時避難所でどれだけ住民を救済できるかですが、実はいまは、先ほど申し上げましたように超高齢化社会に入っているわけです。

訓練をやった時に、町長はよく訓練で意識啓発とおっしゃられますが、実は訓練は参加した人が避難タワーに登れないということができています。高齢者が例えば6分なら6分以内に自宅から登りなさいと言った時に、訓練に参加した人がタワーの下まで行きました。だけど、そこで誰が上げるんでしょうか。こういうことをおっしゃられているわけですね。

そうすると、意外とタワーに登れる人は少ないのではないかと、というのは、この10年間で、先ほど6千何百人というお話がありましたが、もう一つ考えなければならないのは、人口の構成です。高齢者は10年後には50パーセントを超えます。ということは、将来的なことを考えてもはるかに高齢者の方が多くなるわけです。そういった時にどれだけの人が本当に登れるか。

避難タワーを見学に行った時に、小さな子どもたちが登れるように段を少なくして、大人は段を高くして登れるとか、そういう考慮がされていました。しかし、高齢者が登れるというのは本当にできるかどうか、そこも考えなければいけないと思いますが、そのあたりに、考えた上で、あるいは避難所に登るのに、高台に登るということは高齢者にとって非常に大変なことなんです。それが本当に登れるかどうか、そこまでをよく考えた上での容量、ボリューム、本当に3個で・・・、これは総合計画の中では5年間で3基、10年後も3基です。10年間、高齢者が半分以上になる時でも避難タワーが3基という考えでいいわけですね。そうすると、本当に足りるのかどうか、あるいはタワーでいいのかどうか、前から私は救命艇の話とか、それから、ジャケットですね。津波対策用のジャケットとか、そういったものも必要ではないかと提案をしているわけですが、身近にないと多分高齢者は逃げられない。そういったことも考えた対策が必要ではないかと思うんですが、いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 県の方へ陳情に行った時に、先ほど出てきた救命艇、それからライフジャケットのことを聞いたわけですが、まだ補助金としての体制が整っていないというようなことを言われて、なかなかこれを町でやるのはちょっと厳しいのかなというように感じているところですが、そのようなことを県にお願いしていききたいなと思います。

それで、避難タワー、これを造る必要があると思うわけですが、避難タワーの造り方によっても、らせん状にやるとかなんとか、いろいろ区との話し合いの中でいろいろ出てくると思います。

ただ、ある新聞に載っていました救助保安員といますか、浜松でやった養護者避難訓練の中に車いすで乗せている写真が載っていたわけですが、なかなか救助保安員といっても、松崎町でできるかというとなかなかできないと思いますので、そういう場合には、やっぱり向こう三軒両隣ではありませんけれども、各自主防というのはそれなりの地域のことがわかっていますので、それぞれ皆さんで協力して家族以外に助けてもらってくるしかないのかなというように考えられると思います。

自分たちのことを考えると、どこに親戚の誰だれが寝ているかというのが小さい地域だとわかりますので、誰が助けに行くなんていうのがすぐわかるわけですが、松崎町になると、そのようなことが非常に難しいと思いますけれども、やっぱりその地域、地域でそういう情報をうまく区長さんたちが中心になって練っていただきたいなと思います。

それで、この前八木山の方で炭焼有志の会がでて、私も行ってみたけれど、ああいう人たちがいると、こういう地域は何があっても大丈夫だなということを痛切に感じるわけで、そういう35地区のそれぞれの人たちが努力していただきたいなと思います。

○5番（高柳孝博君） 津波はてんでんこで逃げるということが大事ということで、最近消防団でさえ、例えば、陸門を閉めに行くということの場合によってはもう閉めに行かないで逃げる、人命を守るということを言われているわけですね。

そういった中で、自主防であるとか、家族であるとか一緒に逃げてくださいというのは、ある面で酷なところもあるわけですね。てんでんこで逃げなければ助からないという場合があります。3. 1 1の時には家族を助けに行き実際に犠牲になられた方もいらっしゃるわけです。そのあたりは非常に高度な判断が必要になるかと思うんですが、その手段があれば多分逃げようとするということはまた可能になってくるのではないかと、手段を出さずにただ連れて逃げてくださいと言われても、自主防もそれはちょっと難しいのではないかと。

私もかつて班の中で逃げる人、要援護者というのをピックアップしてくださいということをも

やったことがあります。だけど、それを責任を持って班の人が出せるかということは、これはちょっと難しいのではないかなと思うわけです。

ですから、自主防にそれを任せるのではなくて、もう少し一歩、どうするか、システム的なものをもう少し考えないと、まず人命というのは難しいんじゃないかと思います。そのあたりをよろしくお願いします。

時間がなくなるので次にいきたいと思います。広域避難所の見直しは先ほど少し出しましたが、中川とかが考えられるということなのですが、例えば、松高一つをとっても、現在の第3次被害想定は龍門館とあそこの体育館に皆さんが集まることになっています。

ところが、松高は浸水することになっているわけですね。当然それがわかってきたら、そこには逃げられない、そこで避難生活をおくることは難しいわけです。だとしたら、松高の上、先般松高の先生に聞いたところでは、松高の上に逃げることも考えているよというようなことをちょっと聞いたんですが、だとしたら、その上における避難所生活の運営計画がなければいけないと・・・、実際に運営計画というのは非常になくて、第3次の時には町長と松崎高校の校長とが施設を貸すという契約はしていると思うんですね。校長が替わった時に新たにまた、あるいは町長が替わった時に新たに契約すると思うんですが、ただ施設を貸すというだけで動いているだけでは避難所運営はできないわけです。だから、その避難所運営計画というのをぜひ作っていただきたい。先ほど検討しているということなので、先ほど中川も検討されているということですが、それを作っていただくという、そのあたりはいつ頃までに作るか、いかがでしょうか。

○町長（齋藤文彦君）　いつ頃かと言われるのは非常にあれなんですけれども、なるだけ早くいろいろ内部で詰めていきたいと思っています。

○5番（高柳孝博君）　明日起きた時に避難所運営をどうするかという直近の問題でありますので、ぜひ早期にお願いしたいと思います。

それから、業務継続計画について、現在何の業務が応急的に必要なことかというのが各課で出されているということですので、進んでいるというふうに考えるわけです。これも直近の話で、住民サービスにすぐ結び付く話ですので、災害があった時に応急でやる業務は何か、それから、一般でやる業務は何か、あるいは人が少ない時にどうするか、停電になって、水が来なくなった時のシステムをどう動かすか、そのあたりを事前に考えておくことが必要ではないかと思っています。

これは、先ほど検討されているということですので、ぜひ早期に作っていただいて、住民サー



ビスの向上に努めていただきたいと思います。

続いて、次の質問に入りたいと思います。次は、松崎町の将来に向けての第5次総合計画ですが、まず1点、超高齢化社会における人口減少の抑制による10年後の人口7000人目標達成の施策はということなんですが、まず1点、先般、各4地区ですか、説明会をやったんですが、私はあの説明会は非常に不親切だというふうに思っています。実際に住民から出た意見も「これではわからん」「何をやりたいんだ」というような話があったわけですね。

一つは、松崎町第5次総合計画（案）というものが出されています。これがホームページに載っています。だけど、これで意見を収集ということでやっているわけですが、住民の方はこれをどれだけ読んでいますか。意見を聞くと言う時に、ホームページを読める方がどれだけいるか、情報を知らせる時に、どの方をターゲットにして情報を知らせるかは大事なことだと思うんですが、ホームページでこれを知らせる、私も実際これをホームページで打ち出してくれということで打ち出しましたけれども、それで理解できないと思います。しかも説明会の時にはまったく基本の部分しかお話ししていないので、何をやるかさっぱりわからない。

出された資料でいきますと、この資料はまったくスローガンのであって、住民の方もおっしゃっていたわけですが、スローガンならいいと思います。だけど、これから事業計画を作って予算を付けて、もう来年4月から動くんです。予算をいつ作るんですか。

この総合計画ができて、それを基本計画に落として、施策を落として、その施策に沿った事業計画を作るんじゃないでしょう。そこの連携がちょっと出来ているのかどうか、非常に疑問です。もう予算を作ろうという作業にもしかすると入っているかもしれない。12月です。来年の4月から動き出します。それで本当に動けるのかどうか。

一つは、総合計画に「一人ひとりが参加して」とありますね。「活力と安心と感動のあるまち」ですかね。一人ひとりが参加してというのは、住民一人ひとりに総合計画を出さずして、しっかりと伝えないで参加できると思いますか。私はきっちり伝えなくては、それは参加できないと思うんですが。

一つは、役場の方もみんないらっしゃるわけですから、この総合計画策定にあたって、皆さんこれを読んでいますか。ホームページに出ているということで全員読んでいますか。少なくとも役場の職員が全員これを読んでいるくらいじゃないと住民に一人ひとりなんて言えないと思うんですが、そのあたりはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） まず、説明会の関係でお話がありまして、今回106名、高柳議員はすべての会場に出ていただきまして、ご意見を聞いていただいたかと思います。

第4次総合計画を策定する際にそういう説明会的なものは開催しなかったということの中で、今回住民の皆さんのご意見を聞く機会として・・・確かに実施計画的なものがあつたわけではないものですから、総論的な形で考え方ということでお示ししましたので、なかなかわかり難い面というのが多かったかなということは感じております。そういう部分については、やり方を考えていかなければならないかなということでは考えております。

それから、住民の皆さんがどれだけ読んでいるかというような関係、まず、ホームページの関係がすべて見ているわけでは当然ないわけでございまして、基本計画の90ページくらいあるものについてホームページでご覧になれる方はご覧になっていただいている。あるいは役場の方でも一部掲示というんですか、企画観光課の方で提示をさせてご覧いただくというようなことの機会は設けさせていただきました。

これは、90ページのものをすべてに回すということはなかなかできないものですから、そういう形の中で対応させていただいたというところでございます。

それから、住民の皆さんが協働でやっていかなければならないということですので、それは概要版あるいは広報等でお知らせはしていくということで考えておりますし、役場の職員につきましては、現在までの策定の期間の間にそれぞれの課の方へ基本計画はすべて回しておりますので、課の中では確認がされているというふうに理解しています。

○5番（高柳孝博君） 時間がなくなってきたので、次に進みたいと思うんですが、役場の方は最低限承知されていると、今の答弁でいきますと本当にこれを役場の方が見て、今後10年間、今年小学校に入学しようとする方は10年後には高校生になります。3年生ですか、2年生ですか、卒業するんです。その卒業する時の松崎の姿が何かというのが、ゴールが見えないじゃないですか、そのゴールをしっかりと見せない・・・、ゴールがあつた上で施策があつて・・・、住民の方は戦術と言っていましたけれども、民間と戦術というのは違う・・・、戦略ですね。戦略はちょっと違うと思うんですが、戦略とは言えないまでも重点的にやることはあると思います。官は利益があろうとなかろうとやらなければなりません。だから、すべて盛り込みます。この計画のすべて盛り込まれているわけです。そういう意味では、第4次総合計画もそうです。第4次総合計画とこれとどこが違うかという時に、当然やらなければならないことはみんなルーチンのところは変わりはないわけです。

しかし、今後10年間をやる時に結果の指標が出ています。ところが、プロセス系のいわゆる施策の目標というのは一つも出ていない。この施策でだれだけやるか、この施策はこれだけやると結果がこれだけ出るよという連携が出来ていないじゃないですか。その連携が出来て初め

て事業計画を作るんじゃないですか、いま事業計画をどうして作るんですか。

先ほど職員の方にも全部それが伝わっているということですので、職員の方がどこに向かうんだというところがあって、それを、自分がやっている仕事はそれに向かってこれだけ達成できる、その達成感こそが職場でやる・・・、やりがいじゃないですか。私はそういうふうと思うんですが、それがないと職員が気の毒です。

行政改革といって人員削減だ、給料を下げろと言いますけれど、それ以前に働きがいということもやっぱり考えなければいけないと思います。それをちゃんと示さないと職員はかわいそうではないかと私は思います。ちょっと言い方は失礼かもしれませんが。

そのところをきちっとやっていただきたいと思います。

○議長（斉藤 重君） それに対する答弁はいいんですか。

○5番（高柳孝博君） じゃあ、答弁をお願いします。

○副町長（松本忠久君） 見通しがないというようなご指摘でございますけれども、現時点で町がやっている仕事というのは、第4次総合計画に基づいて事業を進めているわけです。議員さん方にもお示ししたとおり、その計画に基づいて細かい事業、予算的に例えばどこの道を作る、どこの橋を作る、子育て支援にどんなことをやるという細かい事業もそれに付いているわけです。

それで、今回新たな、もう期限切れとなった第4次を第5次に取り換えるための計画を作るについていろいろ住民の皆さんのご意見も反映しなければならない、議員の皆さんのご意見も聞かなければならないというようなことで、昨年からの作業を始めているわけですが、まずは住民アンケートあるいは各種団体、例えば、商工会、観光協会、それから農業団体あるいは女性の方々、教育部門の方々、そういった方々からの聞き取り調査、そういったことも進めていく、まずは、第4次総合計画の中でやったことがどうだったのかというような評価についても自分たちというか、役場の職員担当の立場でどうだったのか、そういった評価もした、それで、アンケートの中で何が不足しているのか、何が欲しいのか、今後どうあるべきか、そういったご意見も伺って、そういったまとめの中で素案というのを作って、庁内会議でまたもんで、若い職員の意見も入れる、それから、課長たちの意見も反映する。その上でだんだん積み上げていったものを総合計画委員会というところでご意見をいただいて、それで、今回練り上げていっているわけでございます。

今回説明会へ持っていった資料というのは、その中の本当の骨の部分で、我われは説明するはしてもですね。これじゃあちょっとわからないかなというようなことで臨んだわけですから

ども、確かにそのとおりなかなか理解してもらうには難しい内容だったなというふうに反省はしております。

それで、最終段階で第5次総合計画のまとめに入っているわけですが、当然来年度4月1日からの予算もその内容を汲んで作っていくわけですので、一応予算編成方針を示す中でそのことを加味しながら予算を要求するようということで、各課には通達をしております。

それで、計画は作ってもなかなかそのとおりにいかないという部分も必ずあります。それで、第4次でここまではやろうよということで計画はしたけれども、国の情勢が変わってそういった補助がもらえなくなったとか、町の財政状況がそれに追いつかないというようなこともありまして、結構積み残した事業もあるものですから、それはそれでまた新たな計画の中で、やめてしまうのか、引き続いてやっていくのか、そういった評価も進めまして、いま練っているところでございますけれども、それはまた出来た段階で議会の皆さま方にお示しをしていきたいというふうに考えております。

○5番（高柳孝博君） 施策については、24年度の松崎町議会第1回定例会、町長の施政方針の中でもまったく同じようなことを・・・、当然先ほど言いましたルーチンというのがあるわけですから、それらについてどうなったかという話をして、今年度の予算そのものが始まっているわけです。

しかし、それを何で評価するのでしょうか。プロセス系の目標がないから、それが良かったかどうかというのを言えないわけです。「やりました」「予算のとおりやりました」それは予算を立てればやりますよ。90何パーセントか、おそらく100パーセントに近い値で実行します。しかし、本当に良かったかどうかというのは、本当にこのまちづくりができたかどうかということではないでしょうか。そこのところの・・・、それに繋げるのが今回の総合計画で、将来像があって、それに対する施策、戦術があって、その戦術がどれだけやる、この戦術があっているかどうか、評価する方法がなかったら、ローリングをかけるといっているけれど、何でローリングをかけるかわからないと思います。

そこで、達成すること・・・、それと、そのプロセスにおける目標がないということは、2人をたった1人増やすだけというのと、2人を10人にするということと施策そのものが違ってくると思うんです。施策をチャレンジするくらいの施策をやらないと今の町というのは本当に7000人難しいと思いますよ。実際に。

だから、1人の目標で1人達成した「100パーセント達成しました。万歳」というのは、私はおかしいと思う。10人やってたった30パーセントしかできなくても3人でできた方がよっぽ

どいいじゃないですか。そのあたりの努力目標、施策ができていない。

そこをアドバイザーを頼んだって、企画してもらったということでこれができきたということで、アドバイザーが第4次総合計画にちょっと色を付けたようなやつを作って、体裁を整えて、これだけやるということは、私はアドバイザーには望まないと思います。いま住民が望んでいるのは何かですよね。町当局は何を一番・・・、住民の方が戦略は何かと聞いているところはそこだと思います。それはいまだどのように考えているのでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほど副町長の方からもご答弁いたしましたけれども、住民の皆さんからアンケートを当然取りまして、各団体からもアンケートを取った中でその課題が出てきたわけですので、また、第4次総合計画の中でも出来ていないこと、出来たことというようなことが当然ありまして、それを踏まえて第5次総合計画ができているわけですので、それを改善していい方に向かっていくと、それぞれの分野において指標を置いておりますので、5年後、10年後はこういう形にしたい、それはすべて網羅できているかと言うとなかなか広い範囲ですから難しいわけですが、それぞれこの分野においてはこれだけの目標を達成しようということで目標数値を設定して、それに向かって努力をしていくというようなことで考えておりますので、その目標については、毎年事業実施の中で見直し、見直しということでローリングをしていくということで考えておりますので、全然見直しが足りていないということではないかと、数値目標もないということではないというふうに理解しております。

○5番（高柳孝博君） いま総合計画は途中だと言いますけれどもね。予算を作るんですよ。これに基づいて。

いま方針も施策もちゃんと・・・、それだとしたら遅いんじゃないでしょうか。私はそれを早く作って、住民のあいだに早く、こういう施策でやる、これだけのボリュームでやるということを出して、そこで意見を聞かないと遅すぎると思います。そういう意味ではね。

1点、先ほどアンケートをどう取るかという話ですよ。住民が出したアンケートは松崎町が目指すべき将来像のキーワード、1番にあるのは何ですか。資料がないのでいきなり言ってもわからないでしょうが、活力、賑わいなんです。しかもこの活力、賑わいというのは重要だと言っていて、なされていないということを住民は言っているわけですね。この資料からそう読めるんですが、そこはいかがでしょうか。

○企画観光課長（山本 公君） 第4次総合計画から引き続いて第5次総合計画ということに移っていくわけですので、その事業が分野、分野の名称は変わるにしろ継続はされていくというようなことになると思います。

それで、新たな事業も当然追加はされていくというようなことでご認識いただければと思います。

活力、賑わいというのがアンケートで一番多かった結果でございます。それを踏まえて、では、どういうことをやっていくのかということで、そこは農林水産業の地域資源を活用したそういうまちづくりをしていく、とにかくお金が回るような形のものを作っていかなければならないわけですので、そういう仕組みを作るためにいろいろ各分野において努力をしていくというようなことかと思います。

○5番（高柳孝博君） お金が動くという話は私も賛成なんですけれど、お金は・・・、日本もそうなんですけれども、ストックされているんですね。バリューがない。そういった点でどうしてバリューを動かすかというのを少し検討をお願いしたいと思うんですが。

もう一つは、その目標についてですけれど、先ほどチャレンジするような値になっていない。例えば、観光客数が5年で40万人、10年で50万人ですよね。50万人という値で50万人になると観光は賑やかになるんでしょうか。

河津の桜まつりが何人流動があるんでしょうか。もしわかったら。わからなければ、こっちで言いますけれど。

○企画観光課長（山本 公君） 23年度で34万人くらいだったんですかね。観光入込客数。宿泊とリクリエーションなどの参加の方。多い時は100万人を超えている年もあったかなというふうに思っていますけれども、これは当然松崎だけではなくて、全国的なもので伊豆の問題ということもあるわけですが、人数が増えることによって、そこに観光業に関わる人たちの経済がいくらかでも回っていくという部分がありますので、増えることによって全然プラスにならないということではないというふうに認識はしています。

○5番（高柳孝博君） 増えることはもちろん悪いと言っているわけではなくて、問題は50万人でいいのか、先ほど河津町が100万人以上来たことがある。100万人以上来たら、じゃあ、河津町はよくなっちゃったんですか。河津にこの前行って、町の人と観光協会の方に聞きました。意外とお金が落ちていないとおっしゃられていました。そうしたら、河津のその100万人のところ以上の・・・、10年経って半分のことしかできない。それで夢が持てるかどうか。ちょっとそこは一考をお願いしたいと思います。

それから、商工業の方の目的が、いま23年、525名、そして、10年後も525名、ということは、維持しか考えていない。維持しか考えられていないわけですよね。それでほんとに松崎の将来像としていいのか。

小学校へ来年入学する人が希望を持って将来この松崎町に住みたい。ここで職に就きたい。そういったことが本当にできるんでしょうかね。今でさえ職に就く人が少なく、525 人になっている。そうではなくて、もっと目標を・・・、525 人、維持するんですか。これは。ちょっとその考え方を。

○議長（斉藤 重君） 高柳君、時間はどうしますか。

○5 番（高柳孝博君） すみません。5 分延長をお願いします。

○議長（斉藤 重君） 5 分延長します。

○企画観光課長（山本 公君） このまま維持するかどうかという・・・、525 人、現在のところ商工業に関わる方が 525 ということでございまして、10 年後 525 でいいかということではなくて、やはり増やす努力は当然していくつもりであります。

ただ、現在の状況を見ていきますと、商工業者の数も毎年毎年減っているというようなこともございますので、それが減らないように努力はする。それ以上になればなおよろしいことですので、525 だからいいという話では当然ない。

観光客についても、50 万人という目標は設定してありますけれども、それ以上に向かって努力をしていくというようなことで考えております。

○5 番（高柳孝博君） せっかくアドバイザーをお願いしているんですから、資料をまとめることではなくて、どうしたら 525 人を 1000 人にするかとか、そういった策をもっと一緒に詰めたらいかがでしょうか。その方が希望があるように思うんですが。

一つは、これは総合計画だからと言うけれど、総合計画のあの三角は何なんですか。

基本の方針があって、施策があって、事業計画を作るんですよね。そうしたら、その施策と将来あるべき姿・・・、まずゴールが見えない。ゴールをちゃんと見せないとそこに行くのが見えなんでしょうけれど、ゴールははっきりしないと思うんですが、そのゴールをちゃんとさせて、それと施策との関連、こういうプロセス系の施策をこれだけやったから、この量だったら、例えば、観光客では何人が来るか、別の施策を作ったら観光客がこれだけ増える、そういった関連をしっかりつけて、それで評価しないと良かったかどうかかわからないと思うんですが、事業そのものが合っているかどうか・・・、よく・・・、東伊豆町ですかね。事業仕分けをやったというけれど、施策が本当に合っているかどうか、何で見るんでしょうか。施策をうった事業計画そのもののボリューム、いくらか予算を付けるんです。その予算でいいかどうかを何で判断するか。そういったことをきちと・・・、

それで、一つお願いしたいのは、体系図を作ってください。この施策に対して、この方針に則

って、この施策、戦術をうって、だから、結果にこうするんだ。この施策はこういう目的でやる。これだけの量をやる。目標はこれだということを作っていただきたいと思います。体系図を作るということについて、いかがでしょうか。

○副町長（松本忠久君）　いろんなご意見をいただきましたので、それを踏まえて今後また検討してより良い行政運営ができるように努めてまいりたいと思います。

○町長（齋藤文彦君）　懇談会の中では、基本構想と基本計画というようなことで説明して、町の皆さんには本当に何と言いますか、筋肉を付けて神経が通っているところを話さなかったわけで、非常に不親切と言ったら不親切だったわけですがけれども、第5次総合計画はやっぱり町の皆さんの意見を吸い上げるという意味で懇談会みたいな形を開いたわけですがけれども、それで、いろいろな意見の中で、松崎町長の経営方針をちゃんと示せとか何とか、いろいろあったわけですがけれども、総合計画の中では、いろいろ施政方針演説とか何とかのなかで私のことを言うわけですがけれども、なかなか総合計画の中に私の意見を入れるというのは、10年間のことですから、なかなか・・・、あるのかなと思っていますけれども、これから10年後になると想定でいくとやっぱり松崎町は6200人くらいの人口になるわけです。それを維持していくためには、私は全町まるごとふる里自然体験学校ということで、体験を通して対価を得る、それで流動人口と労働人口も一緒に増やして、死ぬまで一生頑張ってもらいたいと、このような形でいくしか松崎町は元気にはならないと思いますので、そのような形でやっていきたいと思っています。

それで、総合計画の中にもいろいろ私のいろいろなことをいろいろ話してありますので、そのようなことが中に入っていることだと思っていますので、そのようなことでやっていきたいと思っています。

○5番（高柳孝博君）　時間もなくなってきたので、最後の質問にしたいと思いますが、一つは、年齢不詳化時代と言われています。これから10年後をみた時に、7000人にするという時に、10年後は50パーセントを超えます。高齢者が50パーセントを超えるデータになっています。そういった中で、いろんな施策をうつんですが、実は、その超高齢化社会に合った施策をうたないと思いだおりにいかないんじゃないかと思うわけです。

一つは、社会保障というのは非常に大事です。実際に住民もそれを望んでいるというのはアンケートの中で出ているわけで、社会保障、消費型の社会保障だけをやっていたら財政はもちませんし、元気が出ないと思う。

年齢不詳化時代というのは、動ける人、例えば、60から80であっても動ける人と、やむを得ず体調が悪いとか、動けない人と、これからはその2つだろうと、だから、動ける人に対してど



ういうことをしていくか、あるいは動けない人に対してどういうことをしていくか、それをちゃんと施策ででていかないと、第4次総合計画と同じでやると人口構成そのものが変わってきますから、これはもう失敗するのではないかなと思うわけです。

例えば、雇用一つ取った時に、高齢者の雇用というのを考えないと、働く人は高齢者しかいないんです。よそから来ると言うけれど、日本全国にパイがもうなくなっているところで、どこから連れてくれば、連れてきたところは若い人、若年層の人はいなくなるわけです。そのパイの奪い合いをするかという話になるわけです。

一つは、まずここに住んでいる方の高齢者でも働ける雇用政策、シルバーとか何とかあるとおっしゃられるかもしれませんが、そういう雇用対策、もう一つは女性です。女性も働ける・・・、女性の方もたくさん働いていらっしゃるわけですが、そういった雇用というのが、そういったことが必要になるのではないのでしょうか。

時間がないので答弁お願いします。

○企画観光課長（山本 公君） 高齢者にも二通りあるということで、元気で動ける方は当然地域の先生と言うんですかね。町長が言うところの体験の指導の先生ですとか、そういった形で関わってもらう部分も当然ありますし、そこのお店「蔵ら」さんなんかのまちづくりに対する関わりみたいな部分で、高齢の方が元気に仕事をされているという方もあります。

また、三聖苑においても「かじかの湯」で高齢者の方が頑張っているという部分もありますので、そういう元気なお年寄りの方をつくって、皆さんに関わっていただけるようなものを考えて参加していただくということで考えております。当然具合の悪い方は医療の方でまたやるということになると思います。

○議長（斉藤 重君） まとめてください。

○5番（高柳孝博君） 最後に1点だけお願いしたいです。ぜひ計画に対しての体系図というのを作ってください。これは約束してください。どうでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） もう一度ちゃんと聞いて検討してみたいと思います。

○議長（斉藤 重君） 以上で高柳孝博君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

（午前11時33分）

---